

近江での 秀吉・秀長・秀次

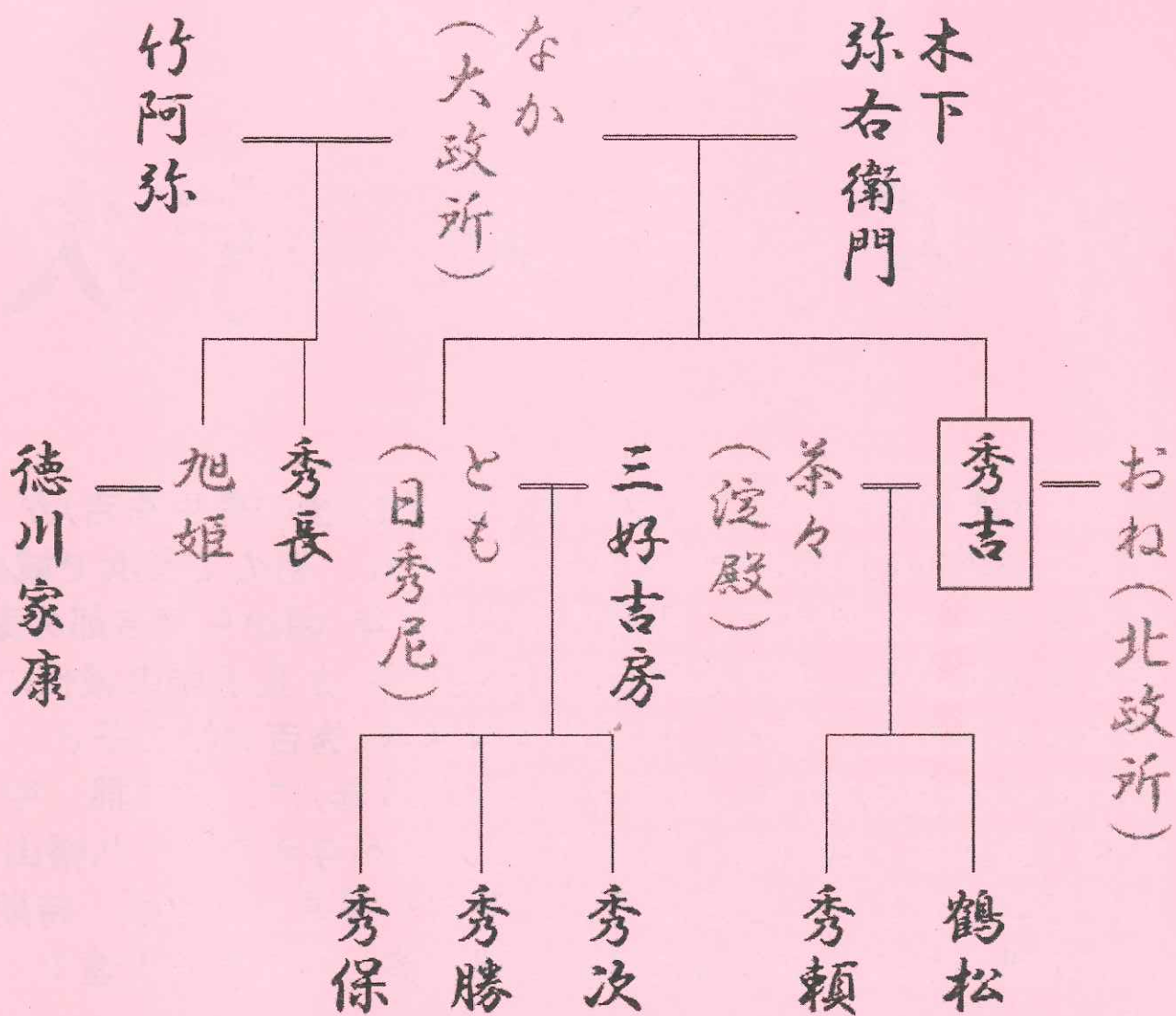
天正元年(1573年)、36歳の木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)が、北近江三郡12万石を領地として与えられ、初めて長浜で城持ち大名になった時期に、永禄六年(1564年)頃から藤吉郎の家来となっていた、木下長秀(後の豊臣秀長)が長浜城の城代に任命されました。また、17歳の羽柴秀次(秀吉の姉の子ども)(後の豊臣秀次)は、天正十三年(1585年)に、蒲生郡・甲賀郡・野洲郡・坂田郡・浅井郡 43万石が与えられ、八幡山城を築城しました。このように、秀吉・秀長・秀次は一時期近江の地に住み、琵琶湖に沈む夕陽の美しさを知る人達です。

一月より始まる、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」の主人公「豊臣秀長」を少し詳しく見直してみませんか？

日時 令和8年1月18日(日曜日) 午後1時～午後3時頃まで
場所 五個荘コミュニティセンター 二階 大会議室(TEL 0748-48-2737)

☆ 筆記用具はご持参ください。

秀吉・秀長・秀次 相関図



この系図から、秀吉と秀長は異父兄弟となっていますが、木下弥右衛門・竹阿弥 同一人物説が「絵本太閤記」に記され、弥右衛門が出家して、竹阿弥を名乗ったとのこと。

また、尾張群書系図部集には、太閤秀吉の先祖の木下国吉は、近江国浅井郡草野郷生まれとあり、滋賀県との縁の深さが窺われます。